B1F 癒しを感じる×リハビリに効く 快活になる×空間を明るくする

窓のない地下空間のため
明るい印象を受けるような作品や、
検査・治療を前に不安に思う
気持ちが少しでも和らぐような
作品を展示しています。

1　宮本 順三　《チベットラサの雪嶺節》 1986年
2　宮本 順三　《青海の祭り》 1988年
※ 1、2ともに、大阪国際がんセンター所蔵

ワンポイントコラム　おもちゃ作りに生涯をかけた“おまけ博士”こと宮本順三

宮本順三/ZUNZO（1915～2004年）は大阪に生まれ、幼少時から玩具と絵に興味を示していました。彦根高等商業学校（現滋賀大学）時代には美術部を作り、中之島洋画研究所へ通うなど、絵画制作に励みました。1935年にグリコ株式会社に入社し、念願の“おまけ係”となり、子どもたちを審査員に迎え、日本と世界の玩具を参考に約3,000種のおもちゃをデザインしました。1960年頃からは、画家として諸民族の「祭りと踊り」をテーマに描き、サロン・ド・パリ受賞、サロン・ドートンヌ、ル・サロンやナショナル・デ・ボザール入選など、精力的に活動し、多くの作品を遺しました。1998年に「豆玩舎ZUNZO（おまけやズンゾ）」を開館し、作品（グリコのおもちゃと絵画）と、世界中を旅して集めた人形・玩具・仮面などの民族文化コレクションを多数展示しています。

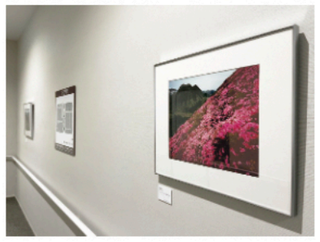
宮本 順三
《チベットラサの雪嶺節》（左）
《青海の祭り》（右）
こんな作品！

「祭りと踊り」をテーマに、チベット族の伝統行事やチベット仏教の祭りの様子を色彩豊かに描いた作品群です。窓のない地下空間ですが、光に溢れる空や人々の信仰と営みを想起させるような作品を展示することで、彩りと華やかで明るい空気を感じる空間にしています。

1F 癒しを感じる×落ち着かせる

緊張感や不安な気持ちを
癒すことのできるような、
落ち着いた色合いの
写真作品を展示しています。

1　白籏 史朗　《ミヤマキリシマ燃え咲く》 1983年
2　白籏 史朗　《お花畑に遊く》 1984年
3　「BiG-i Art Collection 2013」公募入選作品展示



こんな作品！
白籏 史朗
《ミヤマキリシマ燃え咲く》

山岳写真家、白籏史朗による作品です。山梨県に生まれ、山々に囲まれて育った白籏が切り撮った壮大な山並みと美しい植物たちの姿。花々の色鮮やかさに目をうばわれると共に、山の斜面が入り込んでいることで臨場感あふれる画になっています。

2F 大阪国際がんセンター「絵画公募プロジェクト」入選作品

新進芸術家の発掘のため、建畠晳氏（多摩美術大学学長）、秋元雄史氏（東京藝術大学教授・大学美術館長）を審査員に迎えた絵画公募プロジェクトを行い、巨大なキャンバスの入選作品1点を選出しました。

まつなが えみ
《アカツキワンダーランド》

※展示場所については2F展示場所MAPをご参照ください。

作品コンセプト

昼と夜の入り混じった夕暮れ時の光
風景が輝き出す瞬間
自然、空気、時間、出会った人々
いろんなものから力をもらって
前を向いて生きていく。
未来に向かって進んでいく。

作家プロフィール

2003年　倉敷芸術科学大学芸術学部美術学科卒業
2005年　倉敷芸術科学大学大学院修士課程芸術専攻美術研究科修了
　　東京を中心に個展、グループ展を行う
2005年　倉敷現代アートビエンナーレ・西日本　大原美術館（岡山）JFEスチール賞
　　夢広場はるひビエンナーレはるひ美術館（愛知）町民賞
2006年　5days JENAS FACTORY ART AWARD 2006 グランプリM展 高知市文化プラザ かるぽーと（高知）優秀賞
2009年　VOCA展　上野の森美術館（東京）入選
2011年　SICF12（東京）入選

選評

建畠 晳（多摩美術大学学長）

病院の絵画というのは心理的な効果からいってもなかなか難しい条件を満たさなければならないが、まつながえみは確かな技量で見事にクリヤーしているように思う。入選作品は画面の美に明るい光をたたえた樹木の茂みの光景で、逆光に浮かび上がる葉のシルエットの雷なりが美しい。柔らかな色調と相俟って、どこか不思議なファンタジーを感じさせる作品であり、病院を訪れる人たちの心を優しく和ませてくれるにちがいない。

秋元 雄史（東京藝術大学教授・大学美術館長）

まつながえみさん作の「アカツキワンダーランド」は、4.5m×２mの大作である。きっと診療室の大きな壁に似合うだろう。「アカツキワンダーランド」は、日の出頃のほのかに明るくなってきた時間帯の森を描いている。一幅の幻想世界かなと思う。斜めから差し込む光が空間を満たして森全体にひろがっていき、植物はシルエットになっている。朝を迎えるときの独特な静けさをもった時間帯だ。この作品は、これから診療を待つ人達や療養している人たちの心の慰みになることだろう。

1F 「BiG-i Art Collection 2013」公募入選作品展示

障がいのある方たちの社会参加を進めるとともに、アートを通じて共に生きる喜びを社会に発信するプロジェクト（2013年　主催：国際障害者交流センター ビッグ・アイ）の入選作品4点を展示しています。

その他の展示作品

マルコ・バルビエ《ロッテルダム橋》
松本 美千代《扉》
タクール・シュレスタ《無題》

岩坂 晋哉
《カラフルパラと理想のバス運行表》

※展示場所については1F展示場所MAPをご参照ください。

大阪国際がんセンター「アートな病院プロジェクト」

2017年3月の移転・オープンに伴い、「患者の視点に立脚したサービスの提供」の一環として「アートな病院プロジェクト」を立ち上げ、大阪府が所蔵する美術作品（大阪府20世紀美術コレクション）を外来および病棟の各フロアに展示しています。2階および3階の外来フロアには、主要な作家のアート作品を展示する「アートストリート」を設け、2階には、新進芸術家の応募作品の中から入選した、縦2m×横4.5mの絵画（1作品）を展示しています。センター内各所にアート作品を鑑賞できる環境を作り、外来診察の待ち時間やご入院中の患者さん・ご家族に鑑賞いただくことで癒し（精神的なストレスの軽減）を提供しています。

大阪府20世紀美術コレクション

大阪府では国内外の20世紀後半の美術作品を中心に、約7,900点に及ぶさまざまな美術作品を「大阪府20世紀美術コレクション」として所蔵しています。「関西の現代作家コレクション」「世界の現代美術」「現代版画コレクション」「現代写真コレクション」など、絵画の他、写真や版画作品も多くあり、それらの管理と活用は大阪府立江之子島文化芸術創造センター［enoco］が行っています。enoco館内での年数回の企画展の他、外部への貸し出しやアートコーディネートも積極的に行っており、医療機関では他に大阪精神医療センターなどにも作品を展示しています。

表紙の作品：　木村 嘉子　《丸の作品(8)》
展示場所：2F展示場所MAP3
にじみ出ているような淡い赤色が印象的で、柔らかい丸みをおびた線によって表現された空間が、作品を見る人に包み込むような心地よさを感じさせる作品です。

＜鑑賞に際してのお願い＞
・作品にはお手を触れないでください。
・作品や展示風景の撮影はご遠慮ください。
・当センターにお越しの方の通行の妨げにならないようご注意ください。

大阪国際がんセンターについて

当センターは、患者視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発を理念に掲げ、都道府県がん診療連携拠点病院・特定機能病院として先進的ながん治療に取り組んでいます。また、国際的な医療貢献、次世代がん医療の研究開発、がん予防の取り組みを積極的に推進しています。さらに、がんストレス対策として、アート作品の展示の他、クラシックコンサートの開催など、患者さんの癒しにつながる取り組みを進めています。

【 お問い合わせ先 】
地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター事務局
住所：〒541-8567　大阪市中央区大手前3丁目1番69号
電話：06-6945-1181（代表）内線5104
FAX：06-6945-1900
ホームページ：https://oici.jp

ガイドマップ企画・編集：
大阪府立江之子島文化芸術創造センター［enoco］

Osaka International
Cancer Institute

The Artful Hospital Project

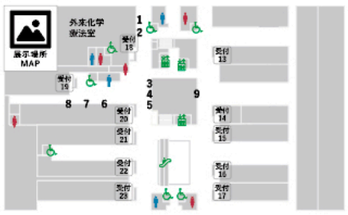
2022

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター
Osaka International Cancer Institute

大阪国際がんセンター「アートな病院」プロジェクト

2F 快活になる×空間を明るくする

診察に訪れる方が多く利用するパブリック性の高い空間であり、
「アートな病院」の顔となるような代表的な作品を展示しています。
大きな画面、力強い色彩など、印象的な絵を見ることで
生き生きとした気持ちになっていただけるような空間にしています。



1　西村 正幸　《Exotic Version;Five O'clock Shadow》 1983年
2　西村 正幸　《Exotic Version Ⅱ》 1983年
3　木村 嘉子　《丸の作品(8)》 1965年
4　木村 嘉子　《地上一尺》 1963年
5　木村 嘉子　《丸の作品(2)》 1965年
6　木村 嘉子　《作品ロ》 1966年
7　木村 嘉子　《作品3-82》 1982年
8　木村 嘉子　《JOH40-S》 1991年
9　大阪国際がんセンター「絵画公募プロジェクト」入選作品
　　/まつなが えみ《アカツキワンダーランド》

ワンポイントコラム　独自の表現を探究し続けた画家　木村嘉子

木村嘉子は1933年大阪（高槻市）に生まれ、1951年京都市立美術大学（現在の京都市立芸術大学）へ入学し西洋画科で油彩を学びました。1957年前衛的な美術団体「パンリアル美術協会」に洋画家として初めて参加し、具象から抽象へ作風を変化させながら出品を重ねました。本人の「Vivre,c'est changer.（生きることは変化することである）というのが私の生活信条である。」という言葉のとおり、抽象初期の布地や自身の手を使った作品（《地上一尺》）、丸の作品（《丸の作品(2)》《丸の作品(8)》）など色彩鮮やかな作品から、マジックペンを使用した線描による作品（《作品ロ》）など独自の表現を探求しながら、1973年には版画技法の一つであるネコプリントによる作品（《JOH40-S》《作品3-82》）の制作をスタート。本来、屋外広告（看板）などに使用されていた写真画像を拡大印刷する技法を、絵画作品に応用する日本で初めての例となりました。初期の抽象絵画からネコプリントによる作品まで、木村嘉子の多彩な作品制作の変遷をたどる事の出来る展示となっています。

こんな作品！
木村 嘉子
《地上一尺》

絵筆ではなく、絵具を塗った紋帳の布地を手のひらで押し当て制作した作品。作者の手のひらや指と布地の質感が柔らかく、また、絵具の乳白色とその間からこぼれる鮮やかなブルーのバランスが美しく幻想的な雰囲気をつくり出しています。

3F 落ち着かせる×コミュニケーションを生む

さまざまな方が行き交う場所でもあるため、
懐かしさを覚える落ち着いた作品や、
患者さん同士や当センター職員との会話のきっかけになるような
親しみを感じさせる作品を展示しています。

1　岩宮 武二　《京格子 一力》
2　岩宮 武二　《勝光手水 孤篷庵》
3　岩宮 武二　《光悦垣 光悦寺》
4　岩宮 武二　《苔庭 西芳寺》
5　岩宮 武二　《磯石 常照皇寺》
6　岩宮 武二　《縄がらみ 祇園祭・山鉾》
7　岩宮 武二　《つくばい 裏千家》
8　岩宮 武二　《真の飛石 桂離宮》
9　柴 清文　《遠方からの使者》 1993年
10　小田 まゆみ　《IN THE POND》 1987年
11　須田 剋太　《近江八幡水郷(A)》 1984年
12　須田 剋太　《近江富士》 1984年
13　須田 剋太　《寝物語里風景》 1984年
14　須田 剋太　《彦根城(A)》 1984年
15　須田 剋太　《伊吹山》 1984年
16　須田 剋太　《姉川洛陣》 1984年
17　須田 剋太　《近江八幡水郷(E)》 1984年
18　須田 剋太　《ビートルズの街》 1987年
19　須田 剋太　《イーストエンド裏庭》 1987年
20　須田 剋太　《ロンドン・ユーストン駅構内》 1987年
21　須田 剋太　《リヴァプール割烹》 1987年
22　須田 剋太　《グレシャムホテル》 1987年
23　須田 剋太　《オコンネル通り　歩道の画家》 1987年
24　須田 剋太　《アラン島の民家》 1987年
25　三尾 公三　《フォーカス原画511》 1991年
26　三尾 公三　《フォーカス原画853》 1998年
27　三尾 公三　《フォーカス原画336》 1988年
28　三尾 公三　《フォーカス原画288》 1987年
29　三尾 公三　《フォーカス原画781》 1997年

こんな作品！
須田 剋太　《グレシャムホテル》

須田剋太による司馬遼太郎著『街道をゆく』の挿絵原画です。今回は1,800点を超えるシリーズ作品から「近江散歩」「愛蘭土紀行」を展示しています。

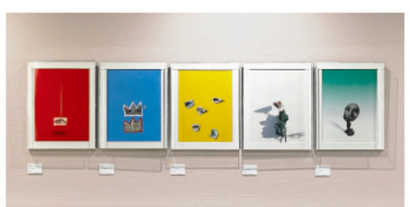
ワンポイントコラム　司馬遼太郎とともに旅した画家 須田剋太

1971年より「週刊朝日」にて連載されていた司馬遼太郎著『街道をゆく』。その挿絵を連載当初より1990年まで担当したのが画家・須田剋太です。司馬とともに旅をし、日本国内の各地はもちろん、アジア、ヨーロッパの国々など63ヶ所もの街道を歩きました。初期はモノクロームでの描画が中心でしたが、徐々に色彩豊かになっていきます。須田の視点を通して描かれる街並み、そこに暮らす人々の習俗や文化の姿は、今もなお生き生きとその地の魅力を伝えてくれます。

3F

こんな作品！
岩宮 武二　《緑先手水 孤篷庵》

既後関西で活躍した写真家 岩宮武二が駆かれ、魅せられた京の姿を撮した「京 いろとかたち」シリーズ。孤篷庵（大徳寺）の障子窓を通して見る、美しく静謐な眺めを切り撮った1点です。



こんな作品！
三尾 公三
《「フォーカス原画」シリーズ
（左から[511][853][336][288][781]）》

写真週刊誌『FOCUS』の表紙絵の原画シリーズです。筆跡が残らないようにアクリル絵の具をエアブラシで吹き付ける手法で描かれており、まるで写真のような質感を持つ絵画作品です。